



川東・青山交流ミニディ



10月13日(火)川東地区・青山地区老人クラブ交流ミニディがふれあい倶楽部において、31人参加で開催されました。

新型コロナウイルス対策を講じてマスク着用 ソーシャルディスタンスの確保、3密を避け、例年とは少し違う交流会でした。アトラクションで遊月亭いく藏様の「タジマ最高」から「バンザイ朝倉山椒」まで8曲のご当地ソングを約1時間楽しく聴きました。(早速13日にはNo2654ブログに投稿されていました)その後、お茶を飲みながらビンゴゲームを楽しみました。大きな声は出せませんでしたでしたが楽しい時間が過ごせました。



奉仕作業



10月5日(月)8時30分より宿南ふれあい倶楽部周辺の草刈り・清掃奉仕作業を川東老人クラブの皆さんでしていただきました。大変綺麗になりました。有難うございました。



こども園・小学校1・2年生秋祭り

10月14日(水)小学校オープンスクールに合わせて神輿練り歩きが行なわれました。こども園(5歳児)6名、小学校5名で「ヤッサーヤレ」の掛け声のもと3台の神輿で約1時間区内を練り歩きました。



秋 祭 り

10月18日(日)宿南各地区で行われましたが
コロナ禍の中での開催のため静かな祭りでした。
来年は例年のような祭りになる事を願っています。



参加者 募集中



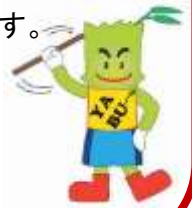
10月より、体操・カラオケ・ふれあいの日
の活動が再開しております。

只今、参加者の募集をしております。

お気軽に参加して下さい。

楽しく一緒に活動致しましょう。

お待ちしております。



お知らせ

11月22日(日) 小学校学習発表会

宿南地区文化祭(中止)



12月

クリスマス会は中止とさせていただきます。

草庵先生紹介



「鹿子(かご)の木」通称、(なんじやもんじゃの木)の中では
兵庫県一の大木、とされる今滝
寺の木 濱篤さん作

日記 24

昨年6月、朝日新聞但馬版に「幻の滝 養父で確認」という記事が記載されていた。養父市八鹿町今滝寺こんりゅうじにある滝が、江戸時代中期の絵図に「名所」と書かれているが現在ではほとんど忘れられている。それに興味を持った人たちが、絵図を頼りに山中深く分け入ってその滝を確認した、というものであった。

池田草庵も今滝寺には何度か行き、その山や滝の景色を見ているので、今は「幻の滝」と言われる滝も見ていたかもしれない。

今滝寺は、国道9号沿いの八木地区から山道を1キロほど登った所にある集落だ。ちょうど国史跡の八木城跡の背後にあり、八木城主ほんだいじの菩提寺の今滝寺とともにあった。地名に「滝」という字が使われているだけあって、大小の滝があちこちにある。

草庵は京都から帰郷して八鹿の立誠舎で塾を開いて1年余り経ったころ、今滝寺に行っている。

「9月9日(弘化元<1844>年)、重陽の節句。今滝の山に入り、僧の神宗を訪ねる。神宗の案内で、咲いている花、大きな岩、そして滝、紅葉、それらをみながら歩き回った。そして、谷に下りて絶壁の下から峰を見上げる。そこにござを敷いて、夕日が迫っていることも忘れて、詩や学問のことを議論した(後略)」(「游今滝山記」)から)

このころの草庵は、八鹿に帰って京都時代の友人と別れた寂しさ、それに雑用や心遣いなどで心身ともに疲れていたようだ。しかし、ここの景色を見ていると、「普段の不満や心の寂しさは一度に消えて、意欲も出てきた」とこの文章を結んでいる。草庵の見た滝が、先の「幻の滝」だったのかどうかは確認できないが、今滝寺の山や滝の景観に心が癒されている。

以上のことは、日記「山窓功課」を書き始める前の八鹿の立誠舎時代のことだが、「山窓功課」にも今滝寺に行ったことが書かれている。

「(前略)午睡から目覚めてお茶。にわかになんか今滝山に行く。僧の神宗を訪問する。夜になって、月が昇ってきて下山。高柳に向かい(福田氏宅に泊)(弘化4<1847>年4月16日)

急に思い立って行きたくなる魅力が、今滝寺にはあったのだろう。

池田草庵先生に学ぶ会